

令和5年度 新座市立第四中学校「学力向上プラン」全体計画

◆本校「学力向上」の基本方針

- ◆学習指導要領に基づいた積極的な授業改善
- ◆「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり
 - ・やってみたくなる課題設定の提示
 - ・読解力の育成
 - ・生徒が自ら考えるための問いの投げかけ
 - ・本時の目標の定着度の確認
 - ・生徒のつぶやきを拾う丁寧な授業
- ◆Chromebook、電子黒板、ロイロノート、Qubenaの活用
- ◆ノート指導の工夫

◆今年度の「埼玉県学力・学習状況調査」の結果

		国語			算数・数学			英語		
		R5レベル	R4レベル	R3レベル	R5レベル	R4レベル	R3レベル	R5レベル	R4レベル	R3レベル
1年	本校平均	7-A			6-A					
	新座市平均	8-C			7-C					
	埼玉県平均	8-C			7-C					
2年	本校平均	8-C	1	7-A	7-A	1	7-B	8-A		
	新座市平均	8-C	0	8-C	7-A	1	7-B	9-C		
	埼玉県平均	8-B	1	8-C	8-C	2	7-B	9-C		
3年	本校平均	8-A	1	8-B	8-A	1	8-B	10-A	3	9-A
	新座市平均	8-A	1	8-B	8-B	1	8-C	10-C	2	9-B
	埼玉県平均	8-A	1	8-B	8-A	2	8-C	10-C	2	9-B

◆調査の「結果分析」と今後の学力向上の取組について

- ◆県学調の結果より、特に学力の伸びた学年・教科は、3年英語(78.8%)であった。主な要因として、以下の2点が挙げられる。
- ◆英語における学力の伸びと、読むこととの関係性が強い。
- ◆読むことは知識・技能との関係性が強い。
- ◆このことから、単元を通して、既習知識に繰り返し触れさせることで、基礎的な知識・技能を定着させることが、学力の伸びを向上させることに有効であると考えられる。
- ◆本校では令和5年度までに、3年生の「学力が伸びた生徒の割合」が各教科85%以上を達成することを目指し研修を行ってきた。今年度の県学調の数値では達成することはできなかったが、3年間を見通せば、伸び率が向上しており、研修の成果がうかがえる。
- ◆令和6年度からは「単元構成及び1単元時間の授業デザイン」について研究を始めた。教師の説明の時間と、生徒の活動の時間のバランスを適切なものにデザインすることで、生徒の主体性を高め、学力の向上を目指していく。

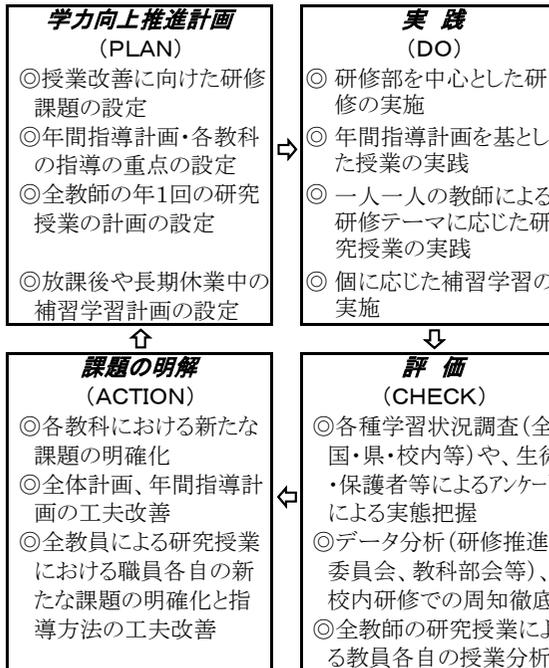
<各教科の課題>

- 【国語】
 - ・課題設定と授業形式の工夫をすること
- 【社会】
 - ・教科の興味・関心を高め、学習意欲を伸ばすこと
- 【数学】
 - ・考えたことを、知識を活用して自分の言葉で説明すること
- 【理科】
 - ・思考力、判断力、表現力等を働かせ、根拠をもって実験結果等を説明すること
- 【音楽】
 - ・確かな知識育成と実技指導による相乗的な音楽能力を育成すること
- 【美術】
 - ・制作と鑑賞をリンクさせながら制作を進める学習過程を工夫すること
- 【保健体育】
 - ・課題解決学習の仕組み作りと学習規律を確立すること
- 【技術・家庭】
 - ・生活を工夫し創造する資質・能力を育成すること
- 【外国語】
 - ・自己表現の幅を広げること

校内研修との関連 質の高い学びの実現に向けた 授業スキルの向上

- ◎効果的な授業デザインに係る研究
 - 1単位時間をどう配分するのが効果的なのか
 - ・教師が主導する時間
 - ・生徒が活動する時間
 - ①授業記録シートによる授業分析(各教科及び各学年)
 - 四中Outlineの改良
 - 授業の質的な改善
 - 前年度までの研究の成果を土台に
 - ◎生徒同士による学び合い
 - ・学び合える時間の設定
 - ・ICT機器の効果的な活用
- ↓
- 質の高い学びの実現**
- ◆主体的・対話的で深い学び

課題の改善に向けて



改善への視点(具体的な取組み)

<各教科の指導の目標・重点>

- 【国語】
 - ・批評文を書くための材料を毎時間で得られるような課題の設定
- 【社会】
 - ・ICTの活用と、生徒の主体的な活動を大切に、思考・判断ができる時間と場面の確保
- 【数学】
 - ・授業の中で数学的用語を意図的に繰り返し使い、それを活用して話し合う場面の設定
- 【理科】
 - ・学び合いを通して、自らの課題を追究できる学習指導法の工夫
- 【音楽】
 - ・知識に重点を置いた授業の構築・展開と知識を元に表現を考える時間・活動の導入
- 【美術】
 - ・参考となる作品を鑑賞し、ヒントを与えることで、より主体的な学習活動とする工夫
- 【保健体育】
 - ・ICT活用による課題発見・解決学習と、学校共通の学習ルールの作成
- 【技術・家庭】
 - ・題材全体の一連の流れやまとまりを意識し、思考と再思考のサイクルを意図的に組み込んだ題材計画の立案
- 【外国語】
 - ・継続して既習表現に繰り返し触れることで自己表現の幅を広げ、質の高い学びを展開できる単元計画の作成

1 指導法の工夫改善	2 評価の工夫	3 ICT機器の活用	4 校内研修の充実	5 検証と分析の充実	6 家庭・地域との連携	7 その他
◎ 委嘱研究の推進 ◎ チームティーチングの計画的な実施 ◎ 年間指導計画の計画的な運用 ◎ 学年教師がローテーションで行う道徳授業	◎ 評価に対する考え方を全教師で共有する ◎ 評価規準を基にした評価基準の検討と作成 ◎ 確かな評価を行うための校内研修の充実	◎ 電子黒板の効果的な使用 ◎ 生徒用端末の効果的な使用 ◎ Google Classroom等の効果的な使用による学び合いの促進 ◎ Qubenaの活用による基礎・基本の徹底	◎ 質の高い学びの実現に向けた授業スキルの向上効果的な授業デザイン ◎ 各種学力調査・アンケートを分析し、新たな課題を明確にする研修の充実	◎ 各種学力調査・アンケートの分析と全教職員への周知 ◎ 生徒、保護者への「学力」「生活」アンケートの実施	◎ H&S等のアプリの活用 ◎ 学校だよりの定期的な発行とホームページの更新 ◎ 学校応援団活動に四つ学校教育への支援 ◎ 保護者会、学級懇談の開催 ◎ 家庭学習の啓発	◎ 毎日の「生活ノート」の充実